

## 平成29年 久留米市政10大ニュース

### 1位は『平成29年7月九州北部豪雨』

平成29年の久留米市政10大ニュースを、次のとおり発表します。

順位	項目
1	平成29年7月九州北部豪雨 ～被災地に寄り添い、さまざまな支援を実施
2	檜原市長が次期市長選に不出馬表明 ～来年1月には新市長が誕生
3	野村総研「成長可能性都市ランキング」で全国9位に ～風土や住みやすさを高く評価
4	東京にアンテナショップ「福岡久留米館」がオープン ～東京で久留米圏域の魅力を発信する拠点に
5	久留米がケニア共和国の東京オリ・パラ事前キャンプ地に決定 ～スポーツの振興に弾み
6	2年目も好調な久留米シティプラザ・市美術館 ～文化芸術のまちづくり、中心市街地の賑わいづくりが進む
7	市税収及び税収納率が合併以降最高に ～地道な取り組みで市歳入の根幹が安定
8	農業産出額が堂々の県内第1位、新規就農者数もトップクラス ～県内最大の農業都市として取り組みを進める
9	こども子育てサポートセンター開設 ～子どもや子育てに関する相談窓口が一つに
10	高齢者の運転免許証自主返納支援をスタート ～安全・安心のまちづくりに向けた取り組みを強化
次点	◎耳納北麓グリーンアルカディア創生が加速 ◎(仮称)久留米・うきは工業用地の第1期工事始まる ◎浸水対策事業推進(東櫛原地区貯留施設供用開始) ◎金鷲旗高校柔道大会で、南筑高校女子柔道部が優勝

#### ※選定の経緯

各部の10大ニュース全215項目の中から、各部の次長等で構成する広報戦略会議の議長(総合政策課長)、副議長(総務部次長・協働推進部次長)、広報課長が28項目を抽出。同会議の委員15名の順位付けを経て特別職などで協議・調整を行い、決定しました。

# 平成29年 久留米市政10大ニュース

## 【1 位】

### 平成29年7月九州北部豪雨

～被災地に寄り添い、さまざまな支援を実施

7月上旬に発生した九州北部豪雨は、近隣の自治体に甚大な被害をもたらしました。久留米市は救援本部を設置し、延893人の職員派遣をはじめ、見舞金や義援金の送付、給水車派遣や給水活動、災害廃棄物の受け入れなど、さまざまな支援を行いました。

また、久留米市社会福祉協議会や日本防災士会久留米支部と連携・協力しながら、ボランティアバスの運行など市民の皆さんによる災害支援活動をサポート。計44回にわたり、延754人が、被災地で家屋からの泥出しや家財の搬出作業などを行いました。久留米広域消防本部は、発災日から1ヶ月間にわたり延156隊500名を災害派遣し、久留米市消防団をはじめ、地元消防団と合同で筑後川などの行方不明者捜索を行いました。

市は引き続き、被災地の復旧・復興に向けた息の長い支援を行っていきます。

## 【2 位】

### 檜原市長が次期市長選に不出馬表明

～来年1月には新市長が誕生

檜原利則市長は、今年9月、平成30年1月の任期満了に伴う久留米市長選に立候補せず、今限りで勇退する意向を表明しました。2期8年にわたって市長を務め、久留米市の発展に尽力しました。これに伴い、来年1月には新たな市長が決まり、新市長の下で市政運営が始まります。

## 【3 位】

### 野村総研「成長可能性都市ランキング」で全国9位に

～風土や住みやすさを高く評価

国内大手のシンクタンクである野村総合研究所が7月に公表した「成長可能性都市ランキング」において、久留米市は、総合ランキング第9位、ポテンシャルランキング第5位にランキングされました。移住・外部人材の受け入れ、多様性への寛容さ、創業を促す基盤などが高く評価されました。今回の評価を分析し、施策に反映させることで、久留米市が持つポテンシャルをより高め、都市の活力を実感できるまちづくりを進めていきます。

## 【4 位】

### 東京にアンテナショップ「福岡久留米館」がオープン

～東京で久留米圏域の魅力を発信する拠点に

7月22日、久留米市、大川市、小郡市、うきは市、大刀洗町、大木町の久留米広域連携中枢都市圏を形成する4市2町で、東京新橋に、アンテナショップ「福岡久留米館」をオープンしました。

ここを拠点に、全国及び海外に、圏域の魅力や特産品を広く紹介するとともに、観光や移住に関する情報発信を行います。そして、圏域の知名度アップや特産品の販路拡大、交流人口、移住人口の増加などにつなげ、地域経済の活性化を目指します。

## 【5 位】

### 久留米がケニア共和国の東京オリ・パラ事前キャンプ地に決定

#### ～スポーツの振興に弾み

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプについて誘致活動を行っていた福岡県と久留米市は、陸上競技の強豪・ケニア共和国と基本合意に至りました。8月に行った調印式では、ケニア共和国スポーツ庁のキレミ カベリア長官、小川福岡県知事、檜原久留米市長の3人が基本合意書に署名しました。東京オリンピック・パラリンピックに向けて若手アスリートの支援も始めている久留米市にとって、今後のスポーツの振興に大きな弾みがつきました。

## 【6 位】

### 2年目も好調な久留米シティプラザ・市美術館

#### ～文化芸術のまちづくり、中心市街地の賑わいづくりが進む

開館1年目にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の公演など目玉事業を開催し53万4千人を集客した久留米シティプラザ。開館2年目となる今年は、3月に五木ひろし氏の公演、4月に楽衆国まつりと同時に1周年記念事業、8月に久留米サブカルまつり、10月に今年が目玉事業のチェコ・フィルハーモニー管弦楽団や松本幸四郎氏主演の舞台「アマデウス」の公演、11月に六角堂広場を中心とした大道芸事業を実施しました。また、国際・全国規模の学会など38件ものMICEが開催されました。

これらにより、久留米シティプラザに市内外から開館以来100万人近い来場があり、文化芸術のまちづくりや中心市街地の賑わいづくりに大きく貢献しました。

また、昨年11月19日に開館した久留米市美術館の本館の入館者数が、8月27日に10万人に達しました。今年は、2月～3月に久留米出身の「吉田博」展、4月～5月にノーベル文学賞受賞者の「川端康成」展、8月～11月初旬にブリヂストン美術館収蔵品による「じっと見る」展及び8月～9月初旬に写真家「星野道夫」展、11月下旬から「東郷青児」展を開催し、開館から1年で、共に開館した石橋正二郎記念館とあわせて16万人を超える入館者を迎えました。また、開館1周年を記念して開催したアートフェスティバルでは、園内にアート作品を展示するなど、アートあふれる空間を演出しました。

市美術館は、前身の石橋美術館の歴史と伝統を引き継ぎながら、文化芸術のまちづくりの拠点として、順調に歩みを進めています。

## 【7 位】

### 市税収及び税収納率が合併以降最高に

#### ～地道な取り組みで市歳入の根幹が安定

平成28年度の決算額で、市の税収が初めて400億円を超え、405億2千万円になりました。

また、市税収納率が9年連続で前年を上回り、96.45%を達成。税収額、収納率ともに、1市4町の広域合併以降で最高の数値になりました。

背景には、コンビニ納付など、納付方法の選択肢が増えたことや滞納させないための地道な取り組みが功を奏したことなどが挙げられます。市税は、市歳入の根幹を成す重要な財源です。安定した税収が、市の様々な政策や事業を後押しし、市の発展を支えます。今後も、市民の皆さんの協力を得ながら、安定した税収の確保に努めていきます

## 【8 位】

### 農業産出額が堂々の県内第1位、新規就農者数もトップクラス ～県内最大の農業都市として取り組みを進める

今年3月、市町村別農業産出額の推計値(平成27年)が、大臣官房統計部より公表され、久留米市は、2位以下を大きく引き離して福岡県内1位となり、多種多様な農産物を産出する農業都市久留米の存在感を示しました。

また、キラリ創生総合戦略「くるめでやってみん農・就農なんでん応援事業」の第2弾として、新規就農者の初期負担を軽減し、早期に経営基盤を確立させるため、農業用機械や生産資材の購入に係る費用の一部を支援する就農支援事業を開始しました。これらをはじめとする新規就農支援の取り組みを継続することで、県内トップクラスの年間約20人の新規就農者が誕生しています。

## 【9 位】

### こども子育てサポートセンター開設

#### ～子どもや子育てに関する相談窓口が一つに

妊娠期から子育て期、就学後18歳までの子どもたちと子育て家庭に切れ目なく寄り添う「こども子育てサポートセンター」を開設しました。

同センターでは、保健所で行ってきた母子保健と子ども未来部が担う子育て支援を集約。子ども未来部で様々な相談や支援事業を行っています。開設を契機として、子育てしやすいまちづくりを一層推進しています。

## 【10 位】

### 高齢者の運転免許証自主返納支援をスタート

#### ～安全・安心のまちづくりに向けた取り組みを強化

全国的に高齢ドライバーの交通事故が増加する中、加齢により自動車の運転に不安を感じている皆さんの運転を卒業するきっかけづくりと交通事故の予防を目的として、70歳以上で、自主的に運転免許証を返納した高齢者にタクシーチケットなどを渡す支援制度を、6月からスタートさせました。予想を上回る反響があり、久留米市の運転免許証の返納者は前年の2倍以上になりました。セーフコミュニティの取り組みや青パト配備の拡大とあわせ、久留米市が目指す安全・安心のまちづくりが、また一步前進しました。

## <次 点>

### ◎耳納北麓グリーンアルカディア創生が加速

豊かな自然や景観、果樹などの多様な農産物、歴史的町並みなど魅力ある資源を活かし、耳納北麓グリーンアルカディアエリアの観光振興をさらに進めました。

6月に九州オルレ久留米・高良山コースで「あじさいオルレ」を開催、7月には地元の農産物を使った「ジェラート総選挙」を実施、また、10月以降、魅力ある食やスポットなどの観光情報を、Instagramや「耳納北麓食旅マップ」などで積極的に発信しています。

併せて、11月には、田主丸ふるさと会館の改修工事に着手、観光案内機能の強化やカフェ・物販機能の整備を進めています。

### ◎(仮称)久留米・うきは工業用地の第1期工事始まる

9月に、福岡県、うきは市と連携して整備を進める「久留米・うきは工業用地」の第1期工事に着手しました。吉本工業団地に隣接し、面積は約33ha。大分自動車道朝倉インターチェンジから約8分と、交通アクセスも優れています。

1,000人の雇用の創出に向け、平成30年度の第1期分譲開始を目指して、産業集積の受け皿となる、魅力ある産業団地の整備に取り組んでいきます。

### ◎浸水対策事業推進(東櫛原地区貯留施設供用開始)

東櫛原地区貯留施設が平成29年6月から供用を開始しました。60mm/h程度の大雨にも耐えうる施設で、警察署や消防署等がある当該地区の浸水対策が進みました。また、大雨の際に10cm以上冠水する恐れのある道路を表示し、避難所等へ安全に行けるようにするため、道路冠水注意マップを3月に公表しました。

### ◎金鷲旗高校柔道大会で、南筑高校女子柔道部が優勝

7月21日から24日まで、マリンメッセ福岡で開催された「第91回平成29年度金鷲旗高校柔道大会」女子の部で、市立南筑高等学校が栄えある優勝を果たしました。同校の優勝は初。決勝戦では大将の素根輝さんが、5人抜きを達成し、逆転勝利を飾りました。

#### 【問合せ先】

担当課：総合政策部 広報課

担当者：坂本、馬渡

連絡先：TEL：0942-30-9119

FAX：0942-30-9702